第８章　北松分教室の研究

新学習指導要領の考えに沿った教育課程の見直し

～国語科、数学科の単元別指導計画表の作成と授業実践～

1　北松分教室の研究テーマ

新学習指導要領の考えに沿った教育課程の見直し

～国語科、数学科の単元別指導計画表の作成と授業実践～

2　研究テーマ設定の理由

開設当初より、話し合いを重ねながら教育課程の編成を行ってきたが、現状として教育課程の充実には課題が多かった。今回、新学習指導要領の考えを取り入れ、教育課程を見直すことで、北松分教室の特色を生かしたさらなる教育活動の充実を目指したいと考える。

3　これまでの研究の経緯

昨年度は「新学習指導要領の考えに沿った教育課程表の見直し」の主題の元、教科別指導の年間指導計画の見直しを行った。高等部の新学習指導要領が公示されていない中ではあったが、一職員一教科を担当し、小中学部の指導要領を参考に教育課程の改定を試みた。その結課、北松分教室で実施している教科指導の年間指導計画の修正・追記を行うことができた。課題として、参考資料の少なさから、国語・数学の追記・修正が不十分となってしまったこと、作成した年間指導計画の内容が、正式に公示された高等部の新学習指導要領に沿ったものになっているかの検証が挙げられていた。

そこで、今年度は昨年度本校において作成された「単元別指導計画表」を北松分教室でも取り入れてみることにした。単元別指導計画表を作ることは、職員一人一人が高等部の新学習指導要領の理念や内容を理解する機会となり、それをより意識した単元計画や授業作りができるようになるのではないだろうか、計画表を基に授業実践を行うことで、その反省等が教育課程の見直しをする際の根拠となるのではないだろうかと考える。昨年度の課題等も踏まえつつ、サブタイトルを「～国語科、数学科の単元別指導計画表の作成と授業実践～」として本研究に取り組むこととした。

4　研究の方法

４月～５月	○これまでの研究概要（成果、課題等）の振り返り。 ○今年度の研究の方向性についての共通理解
５月～７月	○単元別指導計画表の様式について検討 ○記入方法等の共通理解
７月～８月	○単元別指導計画表の作成（国語科、数学科の２学期分） ○新学習指導要領の読み込み
９月～１２月	○作成した単元別指導計画表を基にした授業実践。 ○授業反省、見直し等 ○研究授業（国語科）、授業研究会の実施 ○単元別指導計画表について、アンケートの実施、集約 ○国語科・数学科の年間指導計画の単元の配列、内容の見直し
１２月～１月	○単元別指導計画表の作成（国語科、数学科の３学期分）
１月	○研究のまとめ
２月	○次年度に向けて

5　研究の実際

（１）　単元別指導計画表の作成に向けて

本校で作成された単元別指導計画表の様式を基に、単元別指導計画表とは何かを共通理解するところから始めた。

小規模校であることをメリットとし、全職員が単元別指導計画表を作成して授業実践を行うと

いうことを前提に校内研究を計画し、スタートした。年間指導計画→単元別指導計画表の作成て→授業実践→反省という一連の流れを、職員一人一人が確実に積み重ねていくことができるようにすることを重視するためである。

国語科と数学科に絞って取り組んだ理由としては、昨年度の研究の課題として、国語科、数学科の年間指導計画の内容検討が不十分であったことや、現在、部主事を含め全職員が国語科、数学科のどちらかの教科を担当していること、前述のとおり、単元別指導計画表を作成する一連の流れを職員に定着させることを目的の一つとしたためである。

（２） 単元別指導計画の作成

国語科、数学科の授業は、３学年合同でA～Dグループの習熟度別に展開している。一職員一グループを担当し、国語４グループ、数学４グループの単元別指導計画表作りに取り組んだ。様式は本校で昨年度作成されたものに「実施期日」という欄を追加して使用した。（資料１）

計画表の作成後は各職員で授業実践を行い、反省、追記をするようにした。２学期分の単元が終了する１２月下旬に全職員にアンケートを実施した結果、以下のような意見が上がった。

1　単元別指導計画表の記入時の疑問や気づき、改善点等について
・「単元計画」の欄は、期日と題材が横並びのほうが見やすいのではないか ・「実施期日」の欄は、授業の進度や学校行事等の関係で当初の計画からの変更が多かった。実際の授業時数等の目途として、来年度の参考となるのではないか。 ・「～段階で育てたい力」の欄は、「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」から選ぶことが難しい時があった。内容の検討も今後必要ではないか。 ・「題材」の欄は見た目に文字数が多く、読みづらさを感じる。視覚的工夫が必要。 ・初めて特支の授業に携わる教師にとっては、他職員が書いた「題材」欄の内容を具体的にイメージすることが難しかった。 ・「単元評価」の欄は、生徒の評価を書くのか、評価基（規）準を書くのか、何をどのように書いてよいか記入の仕方が分からなかった。
2　単元別指導計画表の作成、授業実践、反省等を終えての気づき等
○授業の目標を明確にすることができた。 ○授業内容、目標の妥当性など振り返ることができた。（カリキュラム・ネジメント、PDCAサイクル） ○単元のまとまりを意識できた。目標、評価を意識することで授業展開や手立てなどが考えやすくなった。 ○他職員の計画表を見て授業作りの参考にできてよかった。経験の浅い職員にとってありがたい資料である。 ●書き物が増え、手間に感じる。 ●これまで自分なりの方法で計画していた。文章化することに時間と手間がかかる ●書くだけになり、誰も見ないのではないか。保管方法等工夫が必要ではないか。 ●新学習指導要領や単元別指導計画表の理解が全般的にできていない。そのために書きにくさを感じている。 ●同じ授業内容でも指導方法は教員によって違う。どのようにすればよいのか。

1に関しては、様式の配置等で改善できる点は、今後検討する予定である。また、記入方法についての意見については、今年度、本校で作成されたマニュアルで対応可能かと考える。「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」の内容の見直しは今後の課題である。北松分教室の地域性等も加味し、独自の項目も検討してよいと考える。

2は、単元別指導計画表を作成するにあたっての感想を長所と短所でまとめた。今後、作成した単元別指導内容表の保管方法や次年度以降の保存方法（上書きするのか新たに保存するのか）など、成果物の引継ぎ方や細かなルール決めを行っていくことでより意義深く活用されるものとなるのではないかと感じている。

（３） 研究授業、授業研究

国語科Ｂグループにて研究授業を行った。単元別指導計画表→指導案の作成手順で授業実践に臨んだ。（資料１）

【授業者の反省】

事前に単元別指導計画表を作成した後に学習指導案を作成したことにより、本題材における「育成を目指す資質・能力」の３つの柱が明確となり、題材のまとまりの中での本時の位置づけが捉えやすかった。また、「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」の教科等、横断的な視点も踏まえた教材観や指導観をもって授業に臨むことができたと考える。単元別指導計画表を作成してみて、個人的には「学びに向かう力・人間性等」の目標設定と評価に悩みを覚えたため、この柱を中心目標とした本時を研究授業に当て、授業研究ではその点を軸に協議をお願いした。協議後、明確な答えは出なかったものの、皆が同様に悩み、試行錯誤しながら授業を計画していることが分かった。職員一人一人が物事を捉える視点やアイデア等が違うため、このように単元別指導計画表を書き、職員間で共有することは、互いの授業力の向上に役立つことだと改めて感じることができた。また、協議の中で自身の新学習指導要領の趣旨理解の不十分さも実感したので、自身のスキル向上の必要性にも気付くことができてよかった。

６ 今年度研究のまとめと今後の課題

今年度の研究では、国語科、数学科の単元別指導計画表に取り組んできたが、成果としては、第一に成果物（単元別指導計画表）ができたことである。保管や引継ぎ方等に課題はあるが、作成するにあたり、新学習指導要領の理念に沿った授業改善を行うツールとして有効であることを認識することができた。作成の中で新学習指導要領を手にする機会も増え、自ずと単元や題材のまとまりを意識しながら主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点をもつことができたと考える。また、当たり前のことではあるが、計画を立てて授業実践をするという習慣化を図ることもできたのではないだろうか。

今年度は、単元別指導計画表の趣旨を理解し、それぞれに作成することに重きを置いたが、来年度以降は、「単元別指導計画表作成マニュアル」に則って、ある程度の水準を保った統一性のあるものを作成できるようにしたい。また、今年度は、国語科と数学科の単元別指導計画表の作成と運用から年間指導計画に反映するところまで取り組む予定だったが、到達できなかったので、教科等を広げ、次年度引き続きの課題として取り組んでいきたい。その他、「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」の内容の見直しについても考えていく必要があると考える。次年度の研究については、今後、検討し決定していく予定である。

今回、研究を進める中で、北松分教室の教育課程に関して、派生して意見交換が行われる場面が多々あった。実施教科等についてや学校行事に関して、年間指導計画の様式について、習熟度グループの編成方法等、挙げればきりがないが、全職員の中に北松分教室の特色を生かしたさらなる教育活動の充実を目指したいとの思いがあることを実感している。今後、一つずつ計画的に話し合いを重ね、解決していかなければならない問題ではあるが、このように職員間で意見交換を行い、課題意識をもてたことは大変有意義なことと感じている。来年度以降の研究においても、小規模校である強みを生かした取り組みができるようにしていきたい。

科指導計画表	単元名	【物語などを読もう　】	指導時期	（　９　）月～（１１　）月

単元計画	（題材名・時間）		
全（　25　）時間	①「　百羽のつる　」 9／3～10／22　計（15）時間	②「　図書室を利用しよう　」 10／24 ～ 11／26　計（10）時間	③「　　」 ／、／、／　計（ ）時間
実施期日	11／26 、11／28 、12／2 、12／5 、12／12 、12／19	／、／、／、／	／、／、／、／

部段階で育てたい力		◎ 日常生活の中で、いろいろな人に自分にとって必要な要求や意思を伝える。
単元目標	A（知・技）	社会人や職業人として必要な言葉を理解したり、適切に使ったりすることができる
	B（思・判・表）	様々な読み物を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像し、内容の大体をとらえることができる
	C（学・人）	よりよい言葉を選んだり、伝え方を工夫したりして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

	【学習内容】※A～Cの何を取り扱う内容なのかを明記する。	【手立て、指導上の意図・留意点等】	【教材】
題材①	○音読をする（A） ・発音や声の大きさを調節したりして読む。 ・文章の構成や内容の大体を意識しながら音読する。 ○物語の内容や登場人物の心情等を読み取る（B） ・語と語、文と文、との関係を基に、出来事の順序や気持ちの変化など内容の大体を捉える ○感想を伝え合う（C） ・自分の考えやその理由について伝えたいことを明確にして話す。 ・相手が伝えたい事柄や考え、気持ちなどを受け止める。	・生徒の実態に応じた読み物を選定する。（物語の長さ、漢字の有無、心情の読み取りやすさ、生活力が高まるような内容など） ・イラスト等を使いながら視覚的に内容を捉えやすくする。 ・指示語がさす内容や比喩表現、登場人物の行動とその理由などについて発問を行いながら読み進め、内容の大体を捉えさせていく。 ・自分が感銘を受けたところに焦点化し、その理由について考えさせ、発表させる。様々な言葉の中から自分の気持ちに一番近い言葉を選ばせる。 ・他者の発表を聞き、「自分もそう思う」と思う意見には共感シールを貼らせる。 ・つるへの手紙を書く。ねぎらう気持ち、思いやる気持ち、アドバイスなど、様々な気持ちを表現させる。	教科書 学習プリント 登場人物のイラスト 共感シール 便箋　封筒
題材②	○図書館（室）の利用方法を知る（A） ・図書館の働きや利用のマナーを知り、利用経験を増やすことで、将来の余暇活動や言語活動の充実につなげる。 ○興味のある本を読む（A.B） ・様々な言葉に触れ、読書の楽しさに気付く	・北松農業高等学校の図書室を利用する。司書教諭へ協力を依頼し、図書室の利用についてガイダンスを行う。書籍の貸し出し、返却を実際に体験する。 ・借りる本はジャンルを問わず、興味のあるものとする。	図書室 書籍

単元評価	A（知識・技能）	B（思考・判断・表現）	C（主体的に学習に取り組む態度）
	・知らない言葉を辞書で調べたりして、言葉の理解を進めることができたか ・声の大きさ、速さに気を付けて、正しく音読することができたか。 ・気持ちを込めて朗読することができたか。	・語と語、文と文との関係を基に、出来事の順序や場面の様子、登場人物の気持ちやその変化などについて捉えることができたか。 ・伝えたいことを明確にして書き表したり、発表したりすることができたか。	・他者の考えの良さに気付いたり、相手を思いやる言葉を選んだりして、思いや考えを伝え合うことができたか。 ・自分で興味のある本を選ぶなど、読書に関心を示すことができたか。

反省	項目	評価（◎○△）	内容
	指導時数、指導時期	△	９月、１０月、１１月は学校行事が多数あり、授業時数の確保が難しかった。生徒の集中力や記憶力等を鑑みても、物語を読み進める本単元には難しい指導時期と考える。題材②は時間が足りず取り組めなかった。
	目標、評価、学習内容、手立て	○	あらすじを図示することで内容理解が進んだように感じた。語句の理解や選び方等にも焦点を当てるよう教師が意識することで、生徒も言葉を選んで発表する様子が見られた。
	教材、場の設定	◎	教科書に掲載されている物語を取り扱った。挿絵によって情景や内容、心情等を視覚的に捉えやすいこと、難しい漢字が少ないことなど、読むことに苦手意識をもつ本グループの生徒達にとっては有効な教材であった。
	育てたい力	○	物語を読んで、自分の気持ちや考えを他者に伝えたり認めてもらったりする経験ができた。

「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」一覧表から選択する。

学習指導要領の指導内容をそのまま転機、または記述する。

単元評価では、題材別の評価ではなく、一単元を通した評価基準を標記する。

単元全体の教師の反省を記入する。（題材ごとにする場合は、内容内を工夫し記入する。）
育てたい力は、本単元がその力を育むものだったかどうかを評価し、一覧表にはない別の力が必要な場合は、具体的に内容に記入する。